

委員ご意見(抜粋)

高校の在り方専門委員会協議テーマ

第1回 テーマ (H25. 2. 27)

「高校教育の現状と課題」

- 社会経済状況、産業構造の変化、県民のニーズ、少子化等にも対応した中長期的な視点での高校改革の必要性

第2回 テーマ (H25. 6. 13)

(1)「リーダー性やグローバルな能力の育成」

- 世界や日本、地域社会でリーダーシップを発揮できる能力の育成
- グローバル社会で国際的に活躍できる能力の育成

第3回 テーマ (H25. 7. 2)

(2)「社会経済の基盤を担う能力の育成」

- ふるさとを支える地域社会人の育成
- 多様な進路目標を実現するための能力の育成

第4回 テーマ (H25. 8. 27 予定)

(3)「自立して社会生活を営む能力の育成」

- 多様な学習ニーズを持つ生徒への支援
- 多文化共生のための教育環境の整備

- ① 現教育ビジョン策定後5年が経とうとしているが、社会の変化も大きく、高校の在り方そのものを見直す時期に来ている。
- ② 少子高齢化の進展や社会経済情勢の変化等、夢を持ちにくい状況ではあるが、この悪条件の中、いかに前向きに物事を考えるのかといったことが重要である。
- ③ 今後、高校の在り方を考える場合、リーダーシップやグローバルな能力の育成というのは言葉で表すのは簡単であるが、このために高校で具体的にどのような力を育成するのかといった観点からの検討が必要となる。
- ④ 人生のデザイン、働くことや社会人としての生き方のデザインが重要。そのためには幅広い思考力や議論が重要だが、これを教育方法や教育制度と関連づけ考える。
- ⑤ リーダーシップやグローバルな能力の育成の観点からも「自立」は重要な要素である。

- ⑥ 子どもたちの持っている力は無限大。その力を開花させるしくみづくりが大切である。
- ⑦ グローバルな能力には「柔軟性」と「アイデンティティ」が重要であり、他者を受け入れる力と自分の国をしっかりと理解し伝える力、その手段として英語力が必要となる。
- ⑧ 今までの普通科・理教科といった学科だけでなく、育成したい能力を明確に示した新しい学科を設置してはどうか。
- ⑨ グローバルな能力や、アイデンティティを持った子を中高一貫で育てるという考え方は良い。その学校ならではの取組を考えてほしい。その際、もつと地域の方を活用してほしい。
- ⑩ 周りに発信する機会を与えると、自分の枠から飛び出すチャンスになり、自信につながる。チャレンジすることで見えてくるものがある。アウトプット型の教育に変える必要がある。

- ⑪ 出口の就職を考え、企業の欲しい人材や分野などを把握して教育体制をつくらないと企業とのニーズとの間でミスマッチが起こる心配がある。
- ⑫ 一つの専門だけでなく、グローバルな広い知識を持つために、いくつかの学科を合わせて新しい学科を設置してはどうか。
- ⑬ 総合学科の自分で授業を選び、職業を考える「意思」が組み込まれる仕組みは素晴らしい。社会の基盤となる力を実践を通して磨きチャレンジしていく場がつけられるのが望ましい。
- ⑭ 学校教育の中に地域を取り入れるべき。地域が高校をバックアップし、地域から発信する方法もある。デュアルシステムは、地域社会との係わりを意識した良い取組である。
- ⑮ 例えば教育センター附属高校など、教員の研修や養成で岐阜県教育を大きく変える取組を導入してはどうか。

8/27 第4回委員会(今会議)で意見聴取予定

第2次岐阜県教育ビジョンに反映

第2次岐阜県教育ビジョン(重点施策)
中長期的な将来を見据えた高等学校の改革

第1章 基本的な方向性

1 高校教育の現状と課題

- (1) 高校を取り巻く環境の変化①②
- (2) 高校教育の将来的な課題(改革の必要性)④①

改革の方向性

2 高校改革のめざす基本的な方向性

- (1) リーダー性やグローバルな能力の育成③⑤⑥⑦⑧⑨⑩
- (2) 社会経済の基盤を担う能力の育成⑪⑫⑬⑭⑮
- (3) 自立して社会生活を営む基礎的能力の育成(8/27 第4回委員会で見聞聴取予定)

具体的政策

第2章 具体的な政策

- 1 高校の枠組みの見直し ①⑫⑭
- 2 魅力ある高校づくり

【新しいタイプの学校の設置】

③⑤⑥⑦⑨⑩⑮

【普通科高校・普通科系専門学科】

⑤⑥⑦⑧⑬

【総合学科】

①⑫⑬⑭

【産業教育・専門高校】

⑧⑩⑪⑲⑳

【定時制・通信制高校】

【外国籍生徒への支援】

【学校種間の連携】

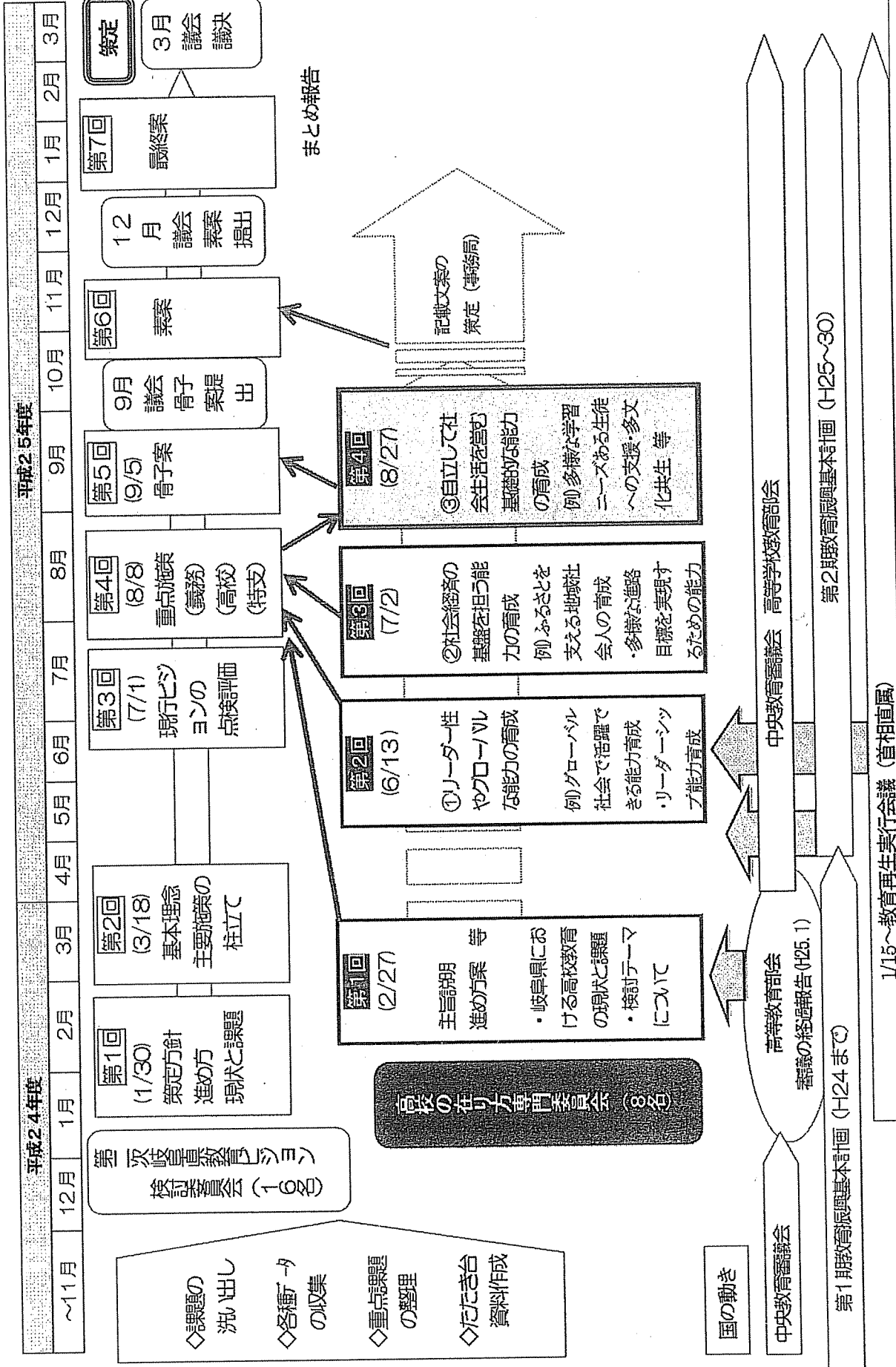
第4回岐阜県教育ビジョン検討委員会 議事要旨

日時	平成25年8月8日(木) 14:00~16:00
場所	岐阜県議会棟西3階第一会議室
出席者	<p><岐阜県教育ビジョン検討委員会委員></p> <p>林正子委員(委員長)、池谷尚剛委員(副委員長)、岩間尚子委員、 衛紀生委員、小塩貞子委員、加藤直樹委員、金森さちこ委員、 川上紳一委員、菊池真也委員、佐久間朋子委員、下屋浩実委員、 土屋誠次委員、丹羽章委員、清水優子委員(副委員長)</p>

意見の要旨「中長期的な将来を見据えた高等学校の改革」関連

- 高校の在り方の報告は、「能力を育てる」と言っているところに共感できる。「education」は、可能性を引き出すということ。子どもの可能性を探し才能を引き出すのが教育。
- 原点に立ち、政策のよりどころとなる「自立力・共生力・自己実現力」をもとに見直すのが良いと思う。難しいのは、高校ごとに課題が違い、学校がいかに生徒の能力・成績を自覚し、学校としての理想を持っていくかということ。
- 岐阜県は連携型中高一貫教育を進めてきたが、併設型中高一貫教育をメリットデメリットを踏まえて議論するべき。
- 中高一貫教育では、各学校の特色を踏まえて、身に付けるべき自立性やグローバル性など、教育内容をしっかり検討していく必要がある。
- 総合学科では、各専門分野に結びつけて多様な内容を学ぶ必要があり、学年が高くなるほど、コーディネートしていく力を求められる。
- すべての学校教育は、子ども達をよりよき社会人に育むためのプロセス。企業は、自分で考えて行動できる「自立、共生、自己実現」の力がある、「ヒューマンスキル」の高い若者を求めている。
- 社会性を担保するために複数の高校で部活動や学校行事を行ったり、小・中学校との校種間連携を進めるべき。
- 企業においてチームワークを組めるコミュニケーション能力を養うためにも学校と企業が隔絶せず、外部の力をうまく活用し、子ども達が社会の企業と触れ合う機会を作ってほしい。
- 英語ができればグローバルな能力が身に付くのかという疑問がある。グローバル化に対応する新しい学科を検討するにあたっては、教育内容を中学生に具体的に示す必要がある。
- 地域社会人の育成に関して、海外を経験してグローバルな見地を持つことも大事であるが、ふるさとの土地の良さを実感することが大切である。まちづくりやまちおこしの中に「教育」を含めて推進していくという観点が必要である。
- 学校教育の中に地域とのつながりを取り入れたり、デュアルシステムを推進すべきという方向性には賛同。
- 企業も子どもと関わって社会貢献を行うことにステータスを感じている。地域社会人になるための教育として、企業の人材をいかに活用して連携していくかが重要。

高校の在り方専門委員会の検討スケジュール



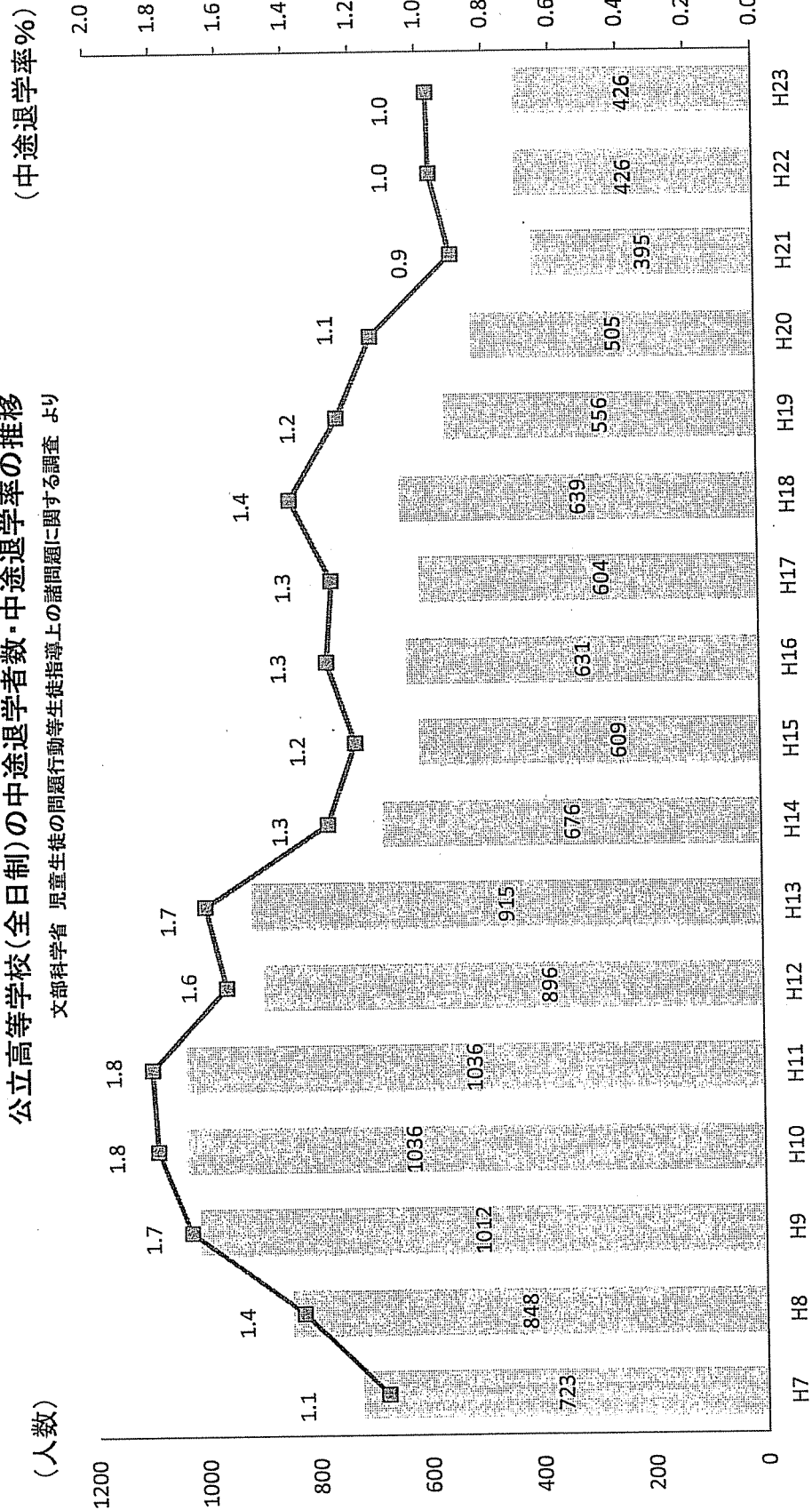
多様な学習ニーズに関するデータ (1) 県内公立高校の中途退学者の状況

第1回「岐阜県教育ビジョン検討委員会」(H25.1.30)資料より抜粋

○ここ数年、中途退学者数はほぼ横ばいではあるが、高等学校段階における中途退学や不登校の理由は、各学校・家庭・生徒個人によって状況が多様化、学び直しの機会の保障が課題

公立高等学校(全日制)の中途退学者数・中途退学率の推移

文部科学省 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査 より



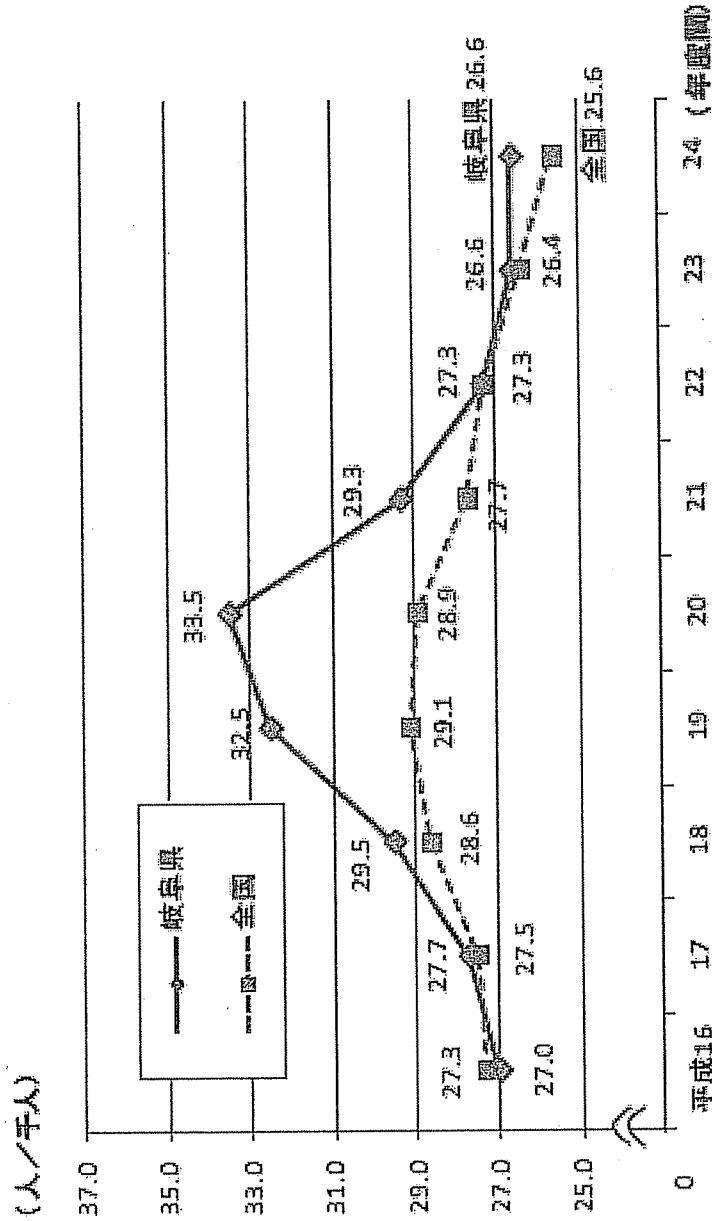
資料2

■ 中途退学者数 □ 中途退学率

(2) 不登校生徒数の推移 (中学校)

出展：平成25年度 学校基本調査結果速報 (岐阜県関係分) より

生徒千人当たりの不登校者数の推移 (中学校)



長期欠席者数の推移 (中学校)

年度間	長期欠席者数	うち不登校者数
16年度間	1,962	1,725
17年度間	2,017	1,748
18年度間	2,134	1,845
19年度間	2,287	2,043
20年度間	2,341	2,094
21年度間	2,070	1,841
22年度間	1,894	1,696
23年度間	1,864	1,658
24年度間	1,876	1,649

(単位:人)

※ 全国の19年度間以降のデータについては、中学校のほか中等教育学校(前期課程)の長期欠席者数を含んでいる。

長期欠席者：年間30日以上欠席のある者

不登校者：長期欠席者のうち、何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童・生徒が登校しない、あるいはしたくともできない状況にある者(ただし、「病気」や「経済的な理由」による者を除く。)

定時制・通信制高校の役割と課題について

・教育制度の変遷

平成 10 年度	県立の全ての定時制・通信制高校を単位制に改編（全国初）
平成 12 年度	「華陽フロンティア高校」開校（三部制単位定時制）
平成 16 年度	「東濃フロンティア高校」開校（三部制単位定時制）
平成 17 年度	「飛騨高山高校」開校（全日制・定時制・通信制を併置）

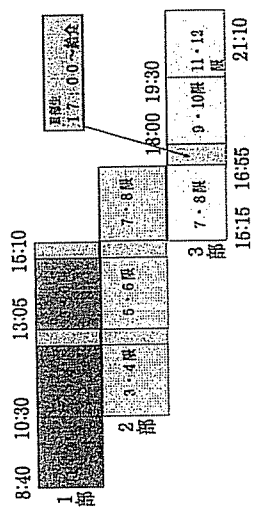
1 定時制・通信制教育の仕組み

・定時制の授業

修業年数	夜間定時制	三部制（華陽 F、東濃 F）
4 年（四修制）	夜間に 4 時間	午前・午後・夜間に 4 時間
3 年（三修制）	夜間の 4 時間に加えて、「0 限授業」「定通併修」「実務代替」「認定試験」など	午前・午後・夜間に 6 時間

東濃フロンティア高校の時間割

- I 部 8:40～15:10
- II 部 10:30～16:55
- III 部 15:15～21:10



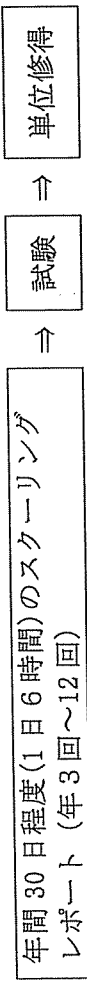
仕事などがある生徒は、四修制を選択することができます。

四修制の生徒の時間割

I 部	1～4 限
II 部	5～8 限
III 部	9～12 限

（I 部⇔II 部⇔III 部、三修制⇔四修制の変更はできない。）

・通信制の授業



- ・3 年以上在籍して 74 単位以上を修得すれば卒業。
- ・転・編入生は、前の学校で修得した単位数によって、1 年での卒業も可能。

2 現状と課題

・現状

- ・様々な入学動機や学習歴をもつ者が多くなっている。
中学校までの不登校経験者など自立に困難を抱える者過去に高等学校教育を受ける機会がなかった者
- ・全日制課程からの進路変更等に伴う転・編入学者（中途退学経験者）
- ・定時制・通信制教育は、多様な生徒に対する「学びの再チャレンジ」の機会の提供など、困難を抱える生徒の自立支援等の面でも大きく期待されている。

・課題

課題	対 応
・基礎学力の定着	・義務教育段階の学習内容の学び直し（F ベーシックなど）
・発達障がいなど特別な支援が必要な生徒への対応	・ユニバーサルデザイン授業 ・精神科医、臨床心理士、スクーラーカウンセラーなどの専門家の派遣
・不登校生徒への対応	・半期単位認定の検討
・多様な生徒への対応	・演劇表現、ライフスキル教育
・社会性やコミュニケーション能力の育成	・キャリア教育アドバイザーの配置
・就職率が低い	

県内の外国人の状況

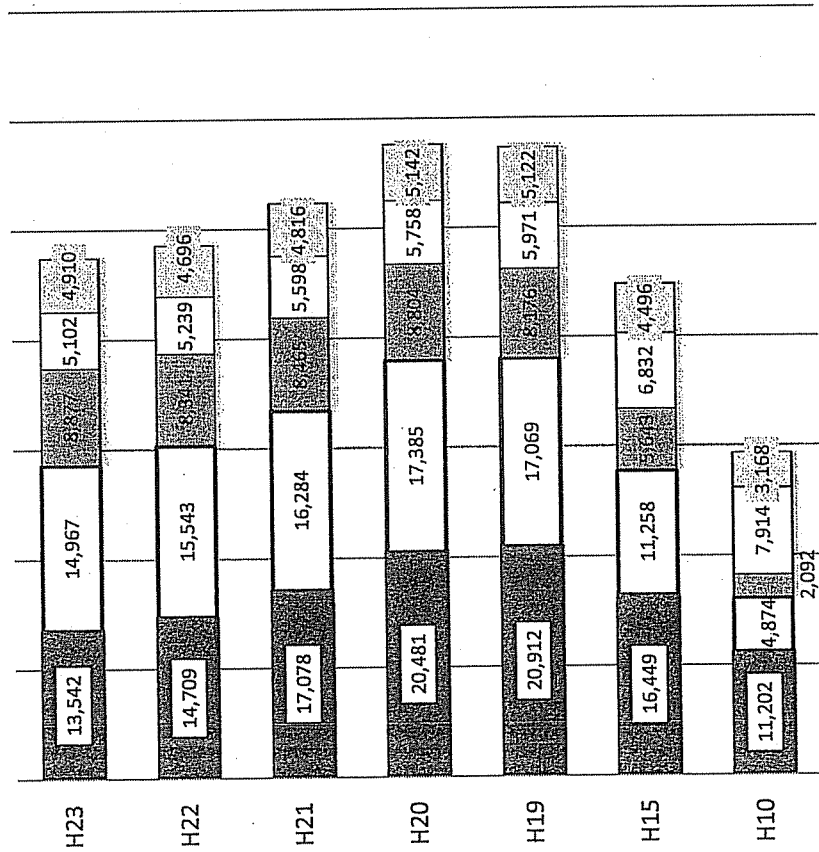
第1回「岐阜県教育ビジョン検討委員会」(H25.1.30)資料より抜粋

○本県の公立小・中学校に在籍する外国人児童生徒数は、H15年から68%増加しており、うち日本語指導を要する児童生徒数も約2倍に増加

国籍別外国人登録者数(岐阜県)

在留外国人統計より

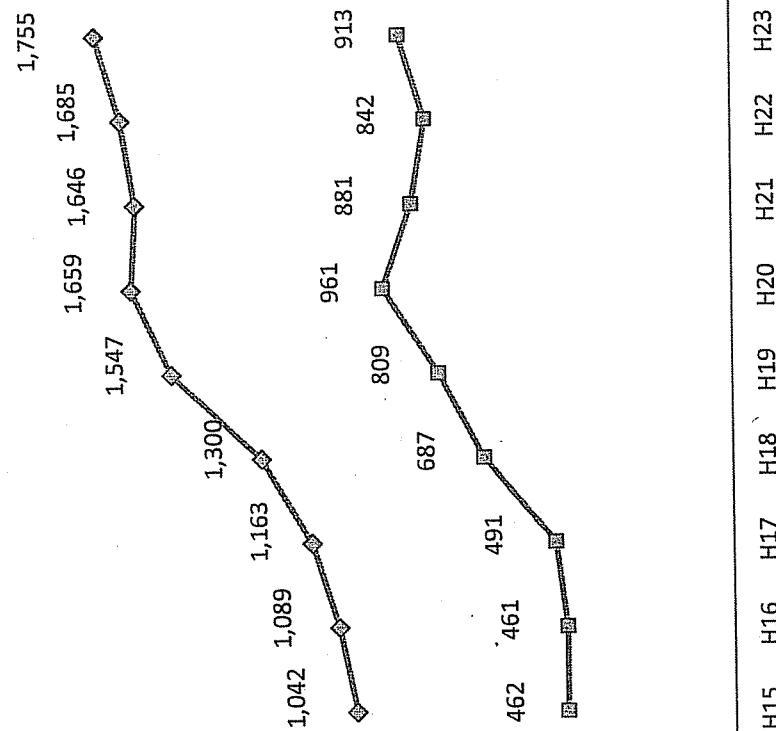
■ ブラジル ■ 中国 ■ フィリピン ■ 韓国・北朝鮮 ■ その他



公立小・中学校の外国人児童生徒数の推移

学校基本調査より

◆ 外国人児童生徒数 □ うち 要日本語指導児童生徒数



資料5

外国人生徒への支援

1 外国人生徒等に係る入学者の選抜

① 実施校、募集定員

- ・ 第一次選抜において、全日制の課程の全ての学校で実施
- ・ 各高等学校の入学定員とは別に、各校3名程度

② 出願資格

高等学校の出願資格を有する者で、かつ、次の(1)、(2)のいずれにも該当する者

- (1) 外国籍を有する者で、原則として、海外における生活が継続して2年以上で、入国後3年以内の者。
- (2) 保護者とともに県内に居住する者又は保護者とともに県内に居住することが確実な者。
ただし、保護者が引き続き海外に居住する場合は、県内に居住している確かな身元引受人のある者。

③ 検査の内容

- ・ 「国語」、「数学」、「英語」の3教科、面接、小論文（音楽科、美術科は、実技検査）
- ・ 「国語」、「数学」、「英語」の3教科に代えて、各高等学校で作成する外国人生徒等学力検査を実施する学校
平成26年度入学者選抜では、岐阜工業高校、加茂農林高校、東濃高校で実施

④ 受検者数と合格者数

H22	H23	H24	H25
18/19	10/14	9/14	8/17

(合格者数/受検者数)

2 外国人児童生徒適応指導員

- ・ 県立高校4校に5名配置
- ・ 加茂高校（定時制）（ポルトガル語）、加茂農林高校（中国語）、東濃高校（ポルトガル語、タガログ語）
恵那南高校（中国語）

福岡県立ひびき高等学校

1

経緯

- 平成15年 北九州地区の7つの高校の定時制課程を再編成し、三部制の定時制普通科高校を設置。
- 定員はI部(午前の部)120人、II部(午後の部)80人、III部(夜間の部)80人

教育活動の特徴

- 多彩な科目、多様な難易度の中から自分で授業を選択
 - ・多くの科目で「基礎」「標準」「発展」の難易度別に設定。大学受験に対応した「応用」講座もあり。講座数は400以上。
 - ・外国語科目では「ハンゲル」「中国語」、情報科目では「ネットワークシステム」「マルチメディア表現」、商業科目では全ての専門科目を設定。
 - ・学校設定教科「環境情報」では、「環境センシング技術」「環境情報基礎」の講座を開講。
- 学校外での学修成果を卒業単位に認定
 - ・10校の大学や専門学校と連携。希望者には連携校で講義を受けることを可能とし、それを高校の卒業単位に認定。
 - 大学・・・機械知能工学入門、心理学、日本文学
 - 専門学校・・・公務員受検講座、医療事務、美容入門 等
 - ・在籍中に取得したワープロ検定や英検・漢検等の資格や検定の成果も卒業単位に認定。
- 充実した国際交流
 - ・マレーシア、ベトナム、中国、アメリカ、韓国の5か国と交流。相互訪問や、テレビ会議システムでの交流を行っている。

2 岐阜県立東濃高等学校

経 緯

- ・可茂学区の全日制の単位制普通科高校（1学年3学級 120名定員）
- ・美濃加茂市、可児市に近く、比較的入学が容易であった高校に外国人生徒が集中
- ・日本語能力が十分でない外国人生徒のためのクラスを編成（H23～）

教育活動の特徴

○外国人生徒の在籍状況（H25.4.1現在）

- ・1年生…フィリピン13名、ブラジル7名、中国1名 計21名／120名
- ・2年生…フィリピン13名、ブラジル9名、ペルー1名 計23名／109名
- ・3年生…フィリピン5名、ブラジル9名 計14名／77名

○外国人生徒クラスの設置（1年）や授業、生活面での支援

- ・1年生120名を5クラスに分割、1クラスを日本語能力が十分でない外国人生徒のための特別クラス（17名）とし、科目の特性に応じ国籍別、日本語レベル別などの分割授業を実施。
- ・2、3年次には特定の科目で一部生徒を「取り出し」て別のカリキュラムで授業を展開したり、指導員（通訳）が授業に「入り込み」生徒の学習を支援。

○外国人児童生徒適応指導員配置事業

- ・タガログ語とポルトガル語の指導員を配置し授業や生活指導をサポート（1050時間／年）

○高校改革リーダーディングプロジェクト推進事業（H25～）

- ・日本語指導員の配置…放課後週1～2回2時間、計60時間／年、日本語の学習を支援
- ・コミュニケーション能力向上のための演劇表現ワークショップの実施
・西川信廣氏（文学座・演出家）を講師に招き、ワークショップを全1年生対象に3回実施。

高校の在り方専門委員会の審議概要

委員長メモ H.25.8.27

岐阜県教育ビジョン

基本理念

高い志とグローバルな視野をもって夢に挑戦し、家庭・地域・職場での豊かな人間関係を築き、地域社会の一員として行動できる「地域社会人」

夢に挑戦する生き方をデザイン

- ・子どもが夢を持ちにくい状況にあるが、如何に前向きに物事を考えるかが重要
- ・卒業後の社会人としての生き方を問う
- ・働くことや社会人としての生き方のデザインが重要
- ・自信をもち、チャレンジする意思の育成

思考や議論を通じた自立

- ・リーダシップやグローバルな能力の基盤
- ・考えることが苦手な現状を改善
- ・課題を見つけて、論理的思考力等
- ・思考や議論が重要
- ・自ら課題を見つけて解決

自信と主張を育む

- ・可能性を開花
- ・日本、地域、学校、家庭、自分を知る
- ・ふるさと岐阜の魅力
- ・「個の主張」の仕方

自立して社会生活を営む

今回の課題

自己実現力

- ・前向きな未来志向
- ・チャレンジする意思
- ・生き方、働き方のデザイン
- ・意志の形成

自立力

- ・思考や議論を通じた自立
- ・デザイン思考の重視
- ・アイデンティティ
- ・自らの能力を自尊

共生力

- ・見極める力のあるリーダ
- ・グローバル人材
- ・柔軟性とアイデンティティ
- ・地域での経験から学ぶ
- ・実践を通して知を磨く

「見極める力」のあるリーダを育成

- ・数字やデータ等のエビデンスで冷静に分析
- ・社会や所属環境等の課題を分析し、ゴールを設定
- ・集団の中で長所が発揮できる環境や組織を形成
- ・経済、経営に係るツールを知り、数字を読む

多様性を活かせるグローバル人材

- ・自らを育んだ社会や環境の理解に基づくアイデンティティ
- ・多様性を認める気質
- ・他者へ伝え、他者を受け入れる
- ・基礎的な力としての英語

他者への働きかけで知を磨く

- ・地域への提案、チャレンジ型に転換
- ・学校の魅力を高める地域の活用
- ・地域の多様な人たちから学ぶ
- ・地域も支える高校
- ・知識を体験によって磨く
- ・学んだ知識を社会の中で関連付ける

中長期的な将来を見据えた高等学校の改革

知識や技能等のリソースを個人として磨き込むことから、リソースを活用しながら複雑な課題に協働して対応できるように価値をおく教育への改革
地域社会、学校間、多様な教育機関等との関係を含めて高校教育をデザインし、直す取り組みを重点的に支援

スピード感ある改革と指導人材

- ・教員の研修や養成
- ・教育センター附属高校等
- ・地域人材との協働

魅力の明確化と周知(自己実現の姿)

- ・魅力や育成能力の明確化
- ・中学生を主とした社会への説明
- ・卒業後とのリンク
- ・地域社会、産業界との連携
- ・育った生徒で評価
- ・入学前の保護者の認識

自立力を主とした改革

- ・「意志」が組み込まれる仕組み
- ・学ぶ意義や価値
- ・多様な人たち、異なる環境での自己
- ・問題意識や意義を持った成長
- ・仕事する意味や価値
- ・巣立つ生徒の能力から高校を改革

共生力を主とした改革

- ・インプット型をアウトプット型へ転換
- ・旧来の学科を新しい方向の学科へ
- ・中高一貫等を活用した能力育成
- ・進学だけでなく、グローバル等に対応する能力育成
- ・論理的思考や課題発見
- ・子ども同士のディスカッションの重視